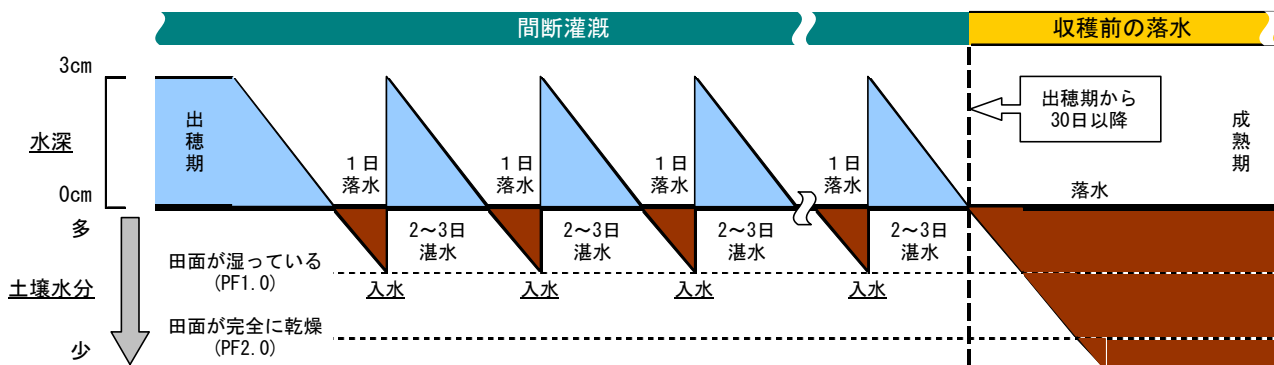


登熟向上のための適正な水管理の実施について

大粒な「ふくまる」を安定的に生産するには、中干し終了後の適正な水管理が重要です。根の活力を維持し登熟の向上を図るために、出穂後 30 日まで間断かんがいを実施して下さい。

○ 間断かんがいの方法

- ① 出穂までは、3～4日程度湛水（入水後自然落水）し、落水状態で1～2日程度保つサイクルを繰り返します。田面が多少乾いても問題ありません。
- ② 出穂期以降は、出穂前よりも綿密な水管理を必要とします。湛水の継続日数を2～3日とし、田面が乾く前に入水するサイクルを繰り返します（下図）。
- ③ 登熟期間に常時湛水や田面が完全に乾くほどの水分不足にすると、乳白米や胴割粒などが発生しやすくなるので注意して下さい。



【参考：今後の病害虫防除について】

(1) イネ縞葉枯病（媒介虫：ヒメトビウンカ）

県病害虫防除所の調査結果（5月下旬現在）によると、県西地域及び県南の一部地域において、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高くなっています。

昨年、イネ縞葉枯病の発生が見られた地域において、本年、ヒメトビウンカを対象とした薬剤による育苗箱施薬を行わなかった水田では、6月中下旬頃に本田防除を行って下さい（病害虫発生予報 6月号及び病害虫発生予察注意報 第2号参照）。

(2) 斑点米カメムシの防除

4月下旬～5月上旬に移植したほ場では、7月15日～25日頃に出穂します。カメムシ類をほ場に寄せ付けないために、畦畔除草を7月上旬までに行ってください。

薬剤防除は必ず穂揃期頃に行い、発生が多い場合には乳熟期にも追加防除を実施して下さい。